



2024年も忙しい1年を予感させる1ヶ月であった。

島根県で2つ目となる「労働者協同組合うんなん」の設立支援を、ワーカーズコープ・センター事業団山陰山陽事業本部とともにおこなう。小規模多機能自治に取り組む雲南市で、住民自治組織「躍動と安らぎの里づくり鍋山」が、これまで広げてきた、見守りを含む水道検針、住民栽培野菜の出荷、放課後の子どもの居場所、温泉施設管理などの事業部門を、地域住民だけでなくより広い地域より人材を確保し、より主体的に事業を運営し継続発展していけるように労働者協同組合法人の併設を検討。定款・事業計画・収支予算づくり、創立総会準備などを支援。設立総会(2/1)には市長も含め多くの関係者が参加。自治会など住民自治組織から労働者協同組合が生まれる2例目(1例目は宮古島市のかりまた共働組合)となり、今後さらに自治会や住民自治組織の法人化につながると思われる。

今年度3回目の連合会の学習会(総務経理)が開催され(1/23-24)、労働契約・労働保険・社会保険・税務署への届出などの設立後の手続きや、全組合員経営を具体的にどのように取り組むかを、これまで労働者協同組合を掲げて取り組んできた団体の事例を基に検討。3月末の決算や納税、その後の総会と県への報告書提出などを、多く

の団体が初めて迎えるにあたり、連合会自身も学びながら、加盟組織とともに研修。

月末には厚生労働省が労働者協同組合周知フォーラム～東日本ブロック～を開催(1/28)。つくば市長のスペインモンドラゴンの視察報告など労働者協同組合への期待と設立支援の取り組み、藤原辰史准教授(京都大学)による基調講演「労働と自治－『はたらく』から『はたらき』へ」、設立事例紹介「労働者協同組合フラヌイスコーレ(富良野市、フリースクール)」「労働者協同組合上田(上田市、高齢者の生きがい就労)」「労働者協同組合キフクト(大和市、造園)」が報告。WNJ藤井恵里代表がコーディネーター、日本総研小島明子氏がコメントーターを務め、想いをもって楽しく設立・運営している様子を伝える。

ワーカーズコープ連合会は、理事会&新年賀詞交歓会(1/29)を開催。理事会では連合会の基本組織設計など連合会や理事会の機能と役割を改めて新理事で検討し、来期事業計画の検討にもつなげる。賀詞交歓会では、協同労働推進議員連盟の多くの議員が参加し、協同労働への期待と、法推進にご尽力をいただく。引き続き、連合会加盟組織が一体となり、協同労働の推進を全国で取り組んでいく。